7月・8月の管理ポイント

平成16年6月25日

株式会社トモグリーン・ケミカル

ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/

第７０号

いよいよ本格的な夏がはじまります。
例年並の暑さになるそうですが、今年の長期予報は果たして当るのでしょうか？
ベントには厳しい季節になりますが、がんばって乗り切りましょう!!

プライマーセレクト

猛暑に備えて均一な水分分布を…

梅雨時期の降雨を利用して、プライマーセレクトを散布しておきます。
マトリックスフローを形成させることによって、透水性を向上させ、梅雨明け直後の高温過湿による根の衰退を軽減させることができます。
使用量：1～2ml/㎡　散布水量：200ml～1L/㎡　散布回数：1ヶ月～1ヶ月半に1回

アクアダクト・アクアダクトSWDG

ドライスポットが発生してしまったら…

ドライスポットが発生してしまったら、治療剤として**アクアダクト**、アクアダクトＳＷＤＧを発生個所及びその周辺に散布します。
アクアダクトＳＷＤＧは粒剤タイプなので、スポット処理には最適で、カップ切りなどの後に処理すると芝の活着が良くなります。
使用量
アクアダクト：1回目は2.5ml/㎡で散布し、回復の状態を見ながら1週間後に1～2.5ml/㎡で散布(散布水量0.5～1.0Ｌ/㎡)
アクアダクトＳＷＤＧ：10～20ｇ/㎡を必要に応じて1週間毎に散布

※　2剤とも非常に安全性が高いので、高温時の散布でも薬害の心配はありません。

コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には…

7月中旬までは、降雨が多く、日照不足のため植物内の活性が低下し、芝生が軟弱になります。
コ･エンザ処理により、植物内の酵素反応を円滑にし、弱った芝生の回復に努めましょう。
使用量：ベント1～2ｇ/㎡　1L/㎡散布　　コウライ3～4ｇ/㎡　1L/㎡散布

ブイボン乳剤・ショットガン

害虫発生にあわせて…

7月、8月はシバオサゾウムシ、スジキリヨトウ、シバツトガ成虫が活動を開始します。
特にシバオサゾウムシは、越冬した幼虫が羽化して、発生数も大幅に増加します。
が類が弱令幼虫の時期にシバオサゾウムシとの同時防除をお勧めします。
害虫の活動が活発になる夕方～夜間に速効性の**ブイボン乳剤**または**ショットガン**で効率的に防除しましょう。
使用量：ブイボン乳剤 2000倍 0.3L/㎡、ショットガン1000倍 0.3L/㎡

グリーンメカ・マリンパワー

芝の呼吸過多による糖消費と土壌菌数の回復に…

7、8月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は1年で最も減少します。糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。
梅雨明け後(7月下旬)は、土壌が高温多湿で酸素不足になり、硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスが発生しやすくなります。**光合成細菌**と**マリンパワー**を組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。
使用量：グリーンメカ 5～10ml/㎡　1L/㎡以上　　マリンパワー 2～4ml/㎡　1L/㎡以上

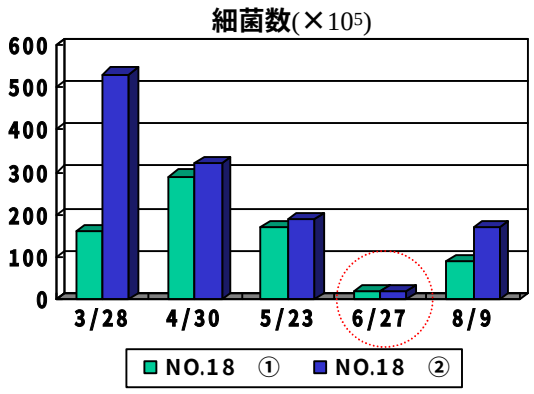
マメ知識

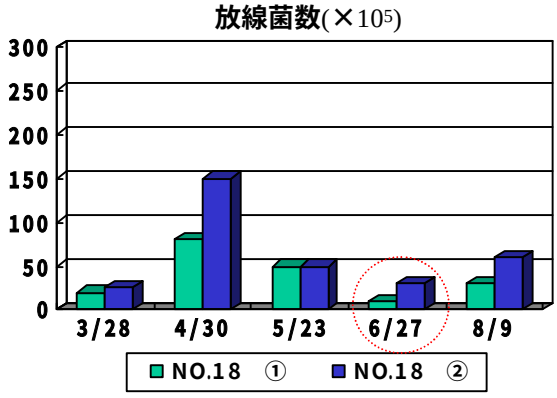
土壌中の微生物は時期によって変動します

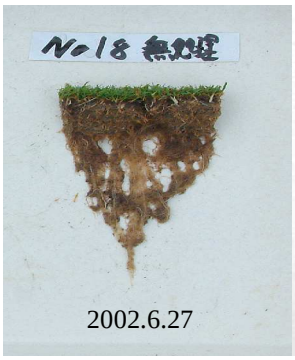
一般的に、梅雨時期は、降雨の影響で土壌中の酸素が欠乏し、微生物(好気性菌)数も一気に減少するといわれています。
この現象と梅雨明けから夏場の気温の上昇が重なると、芝生の根に多大な影響を与えます。
静岡県内でのゴルフ場の、春先から夏場にかけての土壌微生物の変動と、梅雨時期から夏場にかけての根の状態を見てみましょう。

土壌中の細菌数および放線菌数の変動(当社調べ)

調査場所：静岡県Ａゴルフ倶楽部　NO18ベントグリーン
調査方法：コアサンプラーでグリーンを任意に、2箇所抜き取り、深さ3cmまでの土壌の細菌数および放線菌数を定法により測定した。また、同時に根長も測定した。調査は、月1回行った。
調査開始：2002.3.28～







細菌数、放線菌数ともに梅雨時期(6/27)の落ち込みが最も激しい結果となりました。
この菌数の落ち込みが、梅雨明け後の気温の急激な上昇と重なって、根上がりの要因の一つとなります。
つまり、好気性の細菌が減ることによって、硫化水素などの嫌気性物質が増加し、根を直接攻撃するのです。
梅雨明け後は、光合成細菌などを利用し、こういった嫌気性物質を少しでも早く取り除く管理を心がけましょう、